

神奈川県産鉱物(1)

石膏

今永 勇・平田 大二

石膏は、無色透明か白色のものが多く、色の点では、沸石、方解石などの鉱物に間違えることがあるかもしれないが、何といても硬度が1.5~2で爪で傷がつくほど軟かなことが、石膏識別のポイントである。

石膏は、化学組成が $\text{CaSO}_4 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$ である。カルシウムは、地殻中の元素のうち5番目に多い元素であり、その硫酸塩である石膏は、各地で多量に産出する。

結晶形；薄~厚い板状、短~長柱状、針状、レンズ状（レンズ状の結晶は、しばしばバラの花状に集合する）、塊状、細~粗粒状（白いものを雪花石膏と呼ぶ）、繊維状（繊維石膏と呼ぶ）、紛状、結核状。

双晶；{100}に普通で矢羽根双晶、{101}で蝶型双晶、{111}に希。

へき開；{010}に完全ではげ易い、{100}、{110}に明

確。

色；無色、白、灰、黄、赤、茶、塊状ではガラス光沢、繊維状では絹糸光沢、へき開は真珠光沢を示す。

産状；塩湖の蒸発、プラヤ（砂漠の窪地状平原で雨期に浅い湖になり、蒸発すれば、粘土や塩、石膏を沈澱する）、地質時代に海洋から切り離された海の蒸発、黒鉱鉱床に伴う、火山の噴気孔付近に生じる、土状風化物中に生じる。

神奈川県内では、第三紀堆積岩層中の割れ目や空隙、洪積層や沖積層の砂泥の乾燥した土壤中、また箱根火山の噴気孔付近に産出する。次にあげる写真は、形は大きくないが、県内から産出したものであり、すべて神奈川県立博物館地学資料室に収蔵されている。



図1：横浜市金沢区六浦町六浦ポンプ場の沖積土壤中。松島義章氏採集。長さ約1cmの針状結晶。ポンプ場工事現場で採集した土壌を室内に長く置いていたうちに風化乾燥して土壌中の硫酸カルシウムが結晶したものだ。

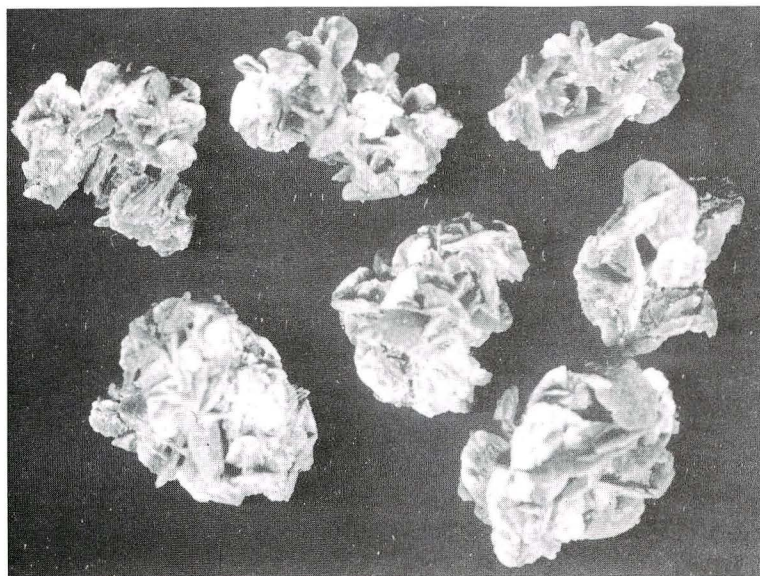


図2：横浜市金沢区六浦町六浦ポンプ場の沖積土壌中。松島義章氏採集。レンズ状結晶がバラの花状に集合したもの、直径約5mm。

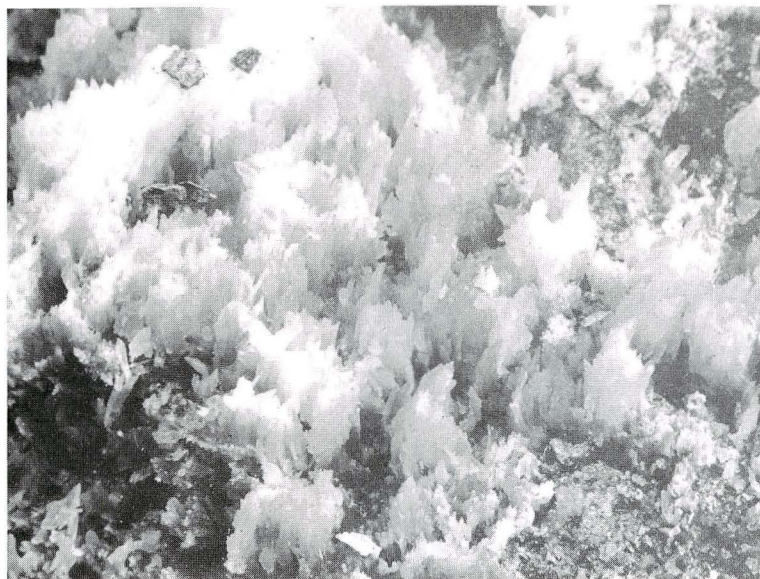


図3：横須賀市追浜鷹取山付近の凝灰質砂岩の割れ目、針状結晶（長さ約1cm）の集合体。日戸義郎氏採集。

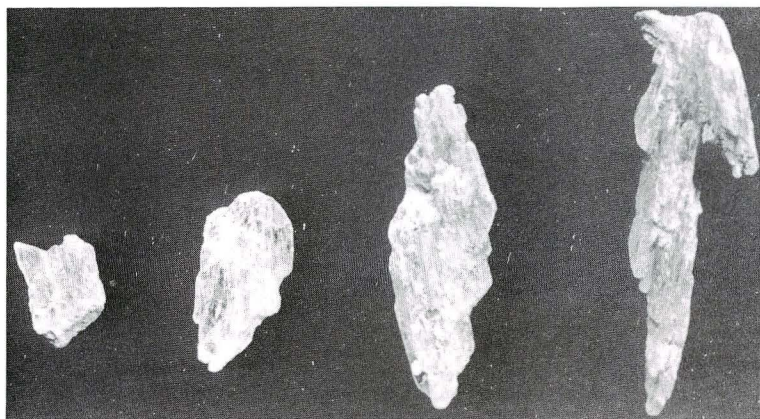


図4：足柄下郡箱根町大湧谷噴気孔付近、矢羽根状結晶。大きさ約3cm。噴気孔付近の安山岩が変質して生じた白色粘土中に矢羽根状結晶が塊状をなして産出する。安山岩が風化分解して生じたカルシウムと硫化ガスが化合したもの。